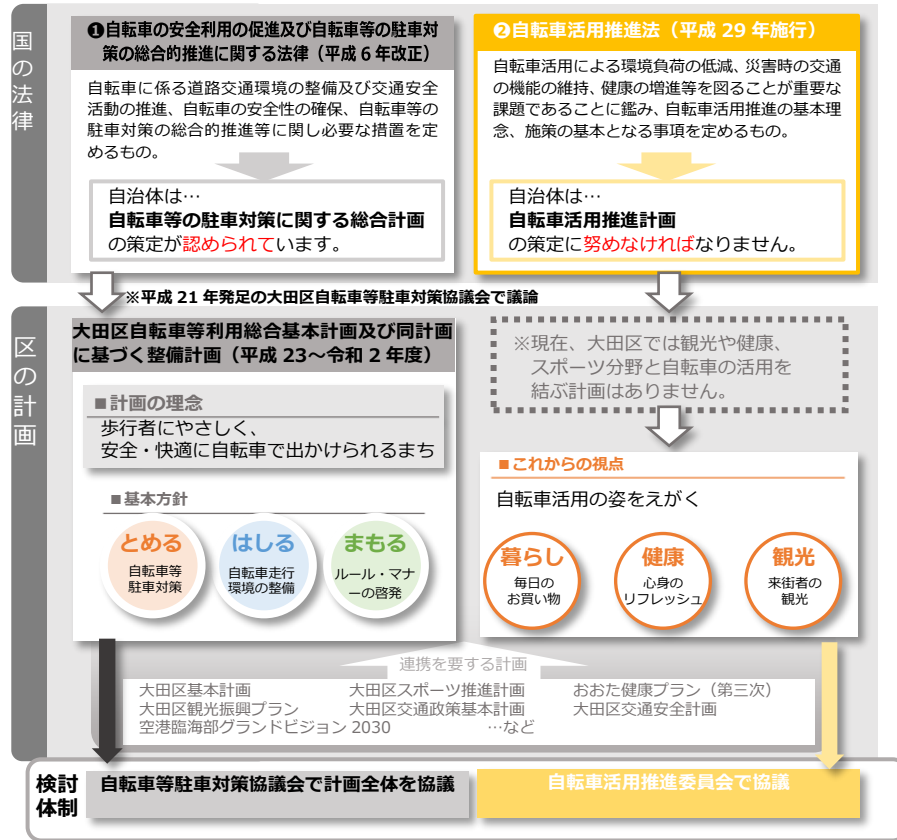


令和元年度 第1回大田区自転車等駐車対策協議会について

1. 大田区自転車等利用総合基本計画の改定に向けて

- 区では自転車の安全利用等を推進するため、平成21年発足の大田区自転車等駐車対策協議会において議論および協議を図り、平成23年に大田区自転車等利用総合基本計画を策定し、【とめる】【はしる】【まもる】の取り組みを推進してきました。
- 計画期間の終了に併せ、平成29年施行の自転車活用推進法に基づく、自転車のさらなる活用の方向性も踏まえながら、現行計画の改定が必要となりました。そのため、【とめる】【はしる】【まもる】の発展について本協議会で継続協議し、活用推進の視点を加えた次期計画の策定を進めます。



2. 第1回協議会の次第

- 令和元年度の第1回駐車対策協議会では、以下の4つの報告、3つの議事を行いました。
- 【報告】**
- 平成30年度 第2回自転車等駐車対策協議会における主な意見
 - 自転車等利用総合計画基本計画の改定に向けて
 - 現行計画の取り組み進捗状況
 - 現行計画の取り組み成果について
- 【議事】**
- 自転車に関するアンケート調査に基づく区民意識からの課題
 - 問題点の整理について
 - 次期計画の体系について



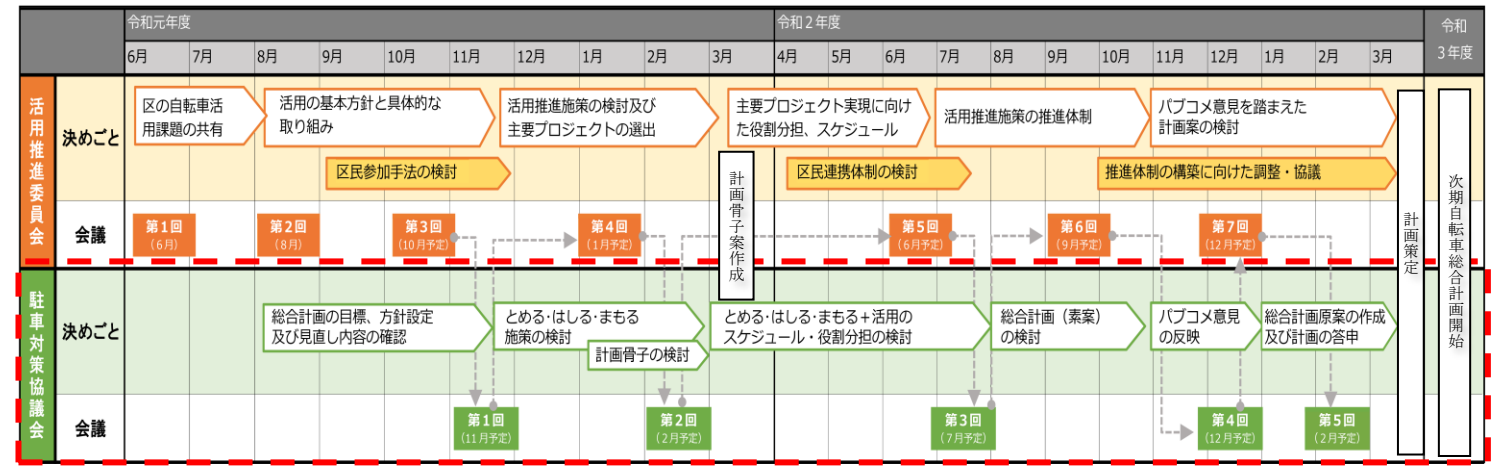
3. 協議会委員名簿

- 令和元年度の協議会委員は右表に示す24名となっています。

役職等	氏名	役職等	氏名
東京工業大学 副学長・教授	屋井 鉄雄	警視庁 池上警察署 交通課長	木村 敏行
東京工業大学 土木・環境工学系准教授	福田 大輔	大田区立小学校長会 副会長	雨笠 常宣
東日本旅客鉄道株式会社 東京支社 総務部 企画室 副課長	沖田 浩嗣	大田区自治会連合会 理事	樋口 幸雄
東急電鉄株式会社 運輸計画部 地域連携・マーケティング課長	後藤 修平	大田区商店街連合会 副会長	相川 英昭
京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 鉄道統括部 事業統括課長	渡辺 正行	大田区シニアクラブ連合会 会長	沼本 光史
東京モノレール株式会社 総務課長	佐藤 圭	蒲田東口地区まちづくり協議会 会長	田中 彰一
東京都交通局 総務部 企画調整課長	渡貴 貴浩	特定非営利活動法人大身連 理事長	宮澤 勇
国土交通省 東京国道事務所 交通対策課長	五味 康真	東京都自転車商協同組合 相談役員	大塚 政利
東京都第二建設事務所 管理課長	高橋 伸子	区民(公募)	喜多河 康二
警視庁 大森警察署 交通課長	原 泰朝	区民(公募)	菅 明男
警視庁 田園調布警察署 交通課長	門向 守夫	交通臨海部活性化特別委員会 委員長	犬伏 秀一
警視庁 蒲田警察署 交通課長	岩坪 浩美	交通臨海部活性化特別委員会 副委員長	高瀬 三徳

4. 計画策定に向けたスケジュール(案)について

- 自転車等駐車対策協議会は以下のスケジュールで進める予定です。



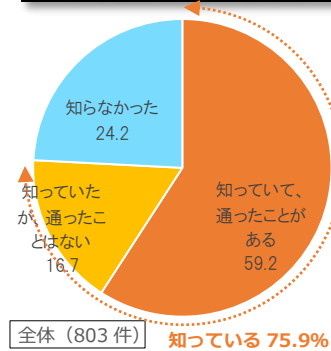
5. 自転車に関するアンケート調査結果について

- 令和元年10月に実施した「自転車に関するアンケート調査」の結果の一部を以下に整理します。

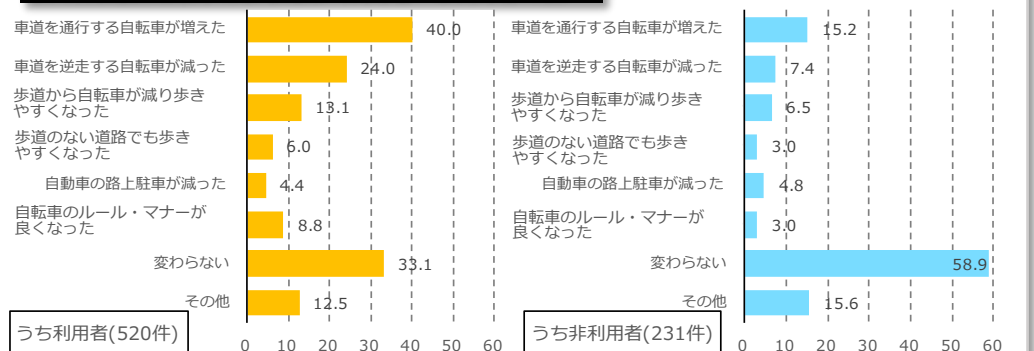
■ 矢羽根型路面表示の認知度と効果

- 矢羽根型路面表示、自転車マークの認知度を全体で見ると、「知っていて、通ったことがある」が59%、「知っていたが、通ったことはない」17%と、合計76%の人が認知している状態です。
- 矢羽根型路面表示の設置効果は、自転車利用者では「車道を通る自転車が増えた」「車道を逆走する自転車が減った」との意見が多く、一方非利用者では59%が「変わらない」と回答しており、整備効果をあまり実感していない状況があります。

■ 矢羽根型路面表示の認知度



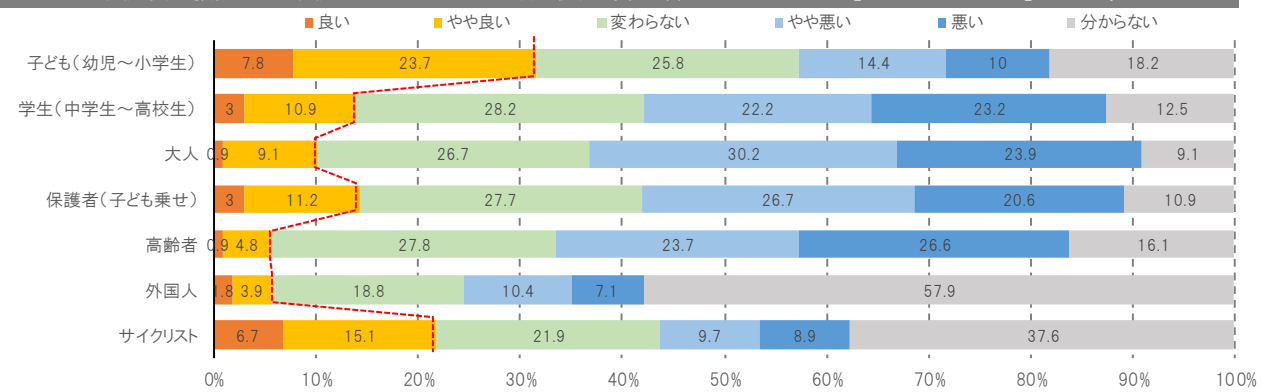
■ 矢羽根型路面表示による効果(利用者・未利用者の別)



■ 過去と比べてときの交通ルール・マナーの改善状況

- 交通ルール・マナーの遵守状況について、過去と比べてときの改善を年齢層別に聞いたところ、総じて「変わらない」の意見が多い一方、中学生～高齢者までの自転車利用に対して、「やや悪い」「悪い」との意見が多くなっています。
- 比較的良好「子ども」への評価を含め、複数の年齢層に訴求できる教育の充実が求められます。

交通安全教育による交通ルール・マナーの改善状況(年齢層別の「良くなった」～「悪くなった」の認識)



6. 主な問題点の整理について

- 現行計画での【とめる】【はしる】【まもる】の取り組みの進捗状況や成果、アンケート調査からの主な問題点や課題を下記のように整理し踏まえ、次期計画に向けた方向性を整理していきます。

■とめる

- ① 自転車等駐車場は、鉄道事業者との連携について、継続して検討する必要がある。
- ② 自転車等駐車場の料金設定について、利用分散等に資する検討が必要である。

■はしる

- ① 矢羽根型表示の高い認知度を、実効果につなげる啓発が必要である。
- ② コミュニティサイクル利用者は年々増加し、活用との連携における今後の方向性の検討が必要である。

■まもる

- ① 自転車問題の改善を中心に広報活動を展開し、子どものルール遵守は改善するも、大人や子乗せ保護者などルール遵守が不十分な状況にある
- ② 【まもる】の取り組みを推進しているが、近年、自転車事故は増加傾向にある。

現行計画での「土台」をさらに伸ばし、「自転車活用の姿」を描く計画づくりを推進

7. 次期計画での施策体系のイメージについて

- 次期自転車等利用総合計画は、現行計画の計画期間 10 年間で踏襲し、令和3年度から令和 12 年度までの、10 年後の将来を見据えた計画づくりを進めるものとしています。
- 次期計画では、現行の取り組みである【とめる】【はしる】【まもる】を継承しながら活用の土台として発展し、その土台を活かして暮らしや健康、観光など新しい視点となる【つかう】(仮)を、活用の取り組みとして進め、土台と活用が互いに連携する計画体系として整理します。
- 計画書の構成イメージについて、将来の社会情勢の変化に合わせて展開できるように次期計画は、10 年間の大きな方針・枠組みを示す「本編」と、短いスパンでの改定を念頭に、5 年間で基本に展開する「実施計画」に分けて、それぞれ以下の内容を想定して検討を進めます。

■次期計画書の施策体系イメージについて

目標像(案) **Cycle City Ota** ~快適・安全・楽しい自転車で、お出かけしたくなるまちづくり

これまでの基盤を継続し土台として活かし、さらに活用できる環境をつくるための計画として…

■土台をつくる

今までの基盤活用の土台としさらに高まる

とめる 適切な駐輪環境をつくる

駅や店舗、観光施設など、自転車で移動した先で安心して自転車を止められるよう、駐輪環境を整えます。

はしる 自転車ネットワークをつくる

区内のどこからでも、どこへでも、安全に自転車で走行できるように、自転車ネットワークをつなげ、走行環境を整えます。

まもる ルール遵守の意識をつくる

自転車を使う人も、使わない人も、安全に移動できるように、自転車を利用する一人ひとりが交通ルールを遵守する環境を整えます。

■自転車活用の姿をえがく

自転車の活用を推進する

つかう(仮) 自転車の活用を推進する

自転車のもつ健康的、経済的で便利な魅力を最大限に発揮し、区で活動するときに積極的に自転車を使いたくなるような、環境づくりを推進します。

Scene1 **暮らし**

日々の暮らしで使いこなす

Scene2 **健康**

健康づくりで使いこなす

Scene3 **観光**

観光・レジャーで使いこなす

連携

■次期計画書の構成イメージについて

本編	大きな方針と施策の枠組み	イメージ	実施計画編	実現に向けたアクションプラン	イメージ
位置づけ	自転車活用の土台となる【とめる】【はしる】【まもる】の視点に+α(つかう)の視点を加え、今後10年間の大きな方針と施策の枠組。		位置づけ	【とめる】【はしる】【まもる】【つかう(仮)】の施策の枠組みに合わせた、5年間の中で実現化を目指す施策。	
更新期間	10年ごとに改定(令和3年度~令和12年度予定)		更新期間	5年ごとに改定(第1期:令和3年度~令和7年度予定)	
記載事項	10年後の未来を想定した目標像、基本方針及び枠組		記載事項	とめる、はしる、まもる、つかうごとの具体事業を記載	
大田区自転車総合基本計画(本編)	<p>【記載事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画の目標像 計画の基本方針(今後検討) 施策の枠組み <p>【施策の枠組み】</p> <p>つかう(仮)</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らし、健康、観光など様々な場面で自転車を使いこなすための取り組み ① 活用のきっかけづくり ② 活用しやすい環境整備 ③ 積極利用の意識にするPR 		大田区自転車総合基本計画(実施計画)	<p>【記載事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策の枠組みに合わせたアクションプランのイメージ <p>【施策の枠組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> つかう(仮) → 自転車活用推進計画 とめる → 駐輪場整備計画(将来予測を含む) はしる → 自転車ネットワーク計画 まもる → 自転車交通安全教育 	

8. 協議会での主な意見について

項目	主な意見
報告1~4 現行計画の改定、進捗状況、成果について	1 平和島周辺での交通事故が集中している。どのような原因が想定できるか整理しておくことが必要。
	2 取り組みの進捗状況について、「はしる」「まもる」に比べて「とめる」が進んでいないように見える。その理由を整理することが必要。とくに駐車料金の柔軟な設定はかなり以前から検討しているが実現に至っていない。
	3 池上通りは車道と歩道が狭い上に多くの歩行者等が集まっている。坂が多い場所のため、電動アシスト付き自転車の利用者が多く、自転車の信号無視などが多い。現場での取締りまでいなくても、声掛けなどの指導が必要。
	4 警察による指導は必要ではあるが、町内会、PTAなど地元も一緒に進めていくことも重要。
議事1 アンケート調査からの課題 議事2 問題点の整理	5 鉄道事業者として、自転車駐車場の整備が進んでいるか、と言われると難しい所がある。今後、各駅の自転車等駐車場の利用状況等のデータを確認しながら、検討していきたい。
	6 鉄道駅付近の自転車等駐車場の定期利用、一時利用の状況を見ると、利用状況にばらつきがあり、利用の平準化や、商店街等と連携した適切な活用など、様々な検討が考えられる。
	7 鉄道事業者との連携として、シェアサイクルのポート設置の協力等も考えられる。
議事3 次期計画の体系について	8 現状として、「まもる」の取り組みについては、大人のルール・マナーが依然として悪い人もおり、今後も重点的に進めていくことが必要。大人に対する交通安全教室などをやっていくのはどうか。
	9 自転車販売店を通じて、直接利用者に周知してもらうことが必要ではないか。
	10 商店街やスーパーなどに協力してもらい、駐輪場の割引、無料化等ができればよいのではないか。
	11 大学生が信号を無視したり、歩道を高速で走るなどの状況も見られる。警察、学校、地元などが連携して周知に取り組めるとよい。
	12 以前大岡山駅で「おしチャリ」等の周知を行ったこともあるが、ルールを守らない人には地元の人も多い。地元や学校がともに連携して取り組むことが必要。
	13 自転車事故の問題に対しては、互いの声掛け等を通じて地域力で意識を変えて、「自覚のある区民」を育てることが大切であり、その努力をしていきたい。
	14 環七通りに面した交差点では、交差する狭い道路(幅員3~4m程度)にも信号が設置され、歩行者、自転車が信号無視することが多く、不用意な飛び出しもある。点滅信号にするなど行動を抑える対策も必要ではないか。
	15 蒲田駅東口はこの10年間ほどで日中の放置自転車は減ってきた。一方で夜間は無法地帯のようになっており、放置自転車が依然として発生している。
	16 電動アシスト付き自転車は重量が重く、危険を感じてもすぐには止まれるものではない。
	17 大人がお手本になるような雰囲気が必要。警察、地域が連携して啓蒙していくことが大切である。